

なぜ、菅官房長官の取材に臨むのか

東京新聞社会部遊軍記者 望月 衣塑子

朝日新聞のスクープから始まった森友学園疑惑

今年2月9日、朝日新聞の朝刊に森友学園の国有地売却価格非公表のスクープが掲載されました。大阪に支局のあるマスコミはこの問題を取り上げていましたが、東京新聞は大阪に足場がありません。そこで私は編集局長に、これは簡単には終わらないかもしれない、財務省、強いては昭恵夫人、そして安倍首相につながってきた場合は、東京でも問題になるから、やらせてくれないかということ直談判しました。すると、当時の編集局長が東京にも波及するかもしれないと、各部長を集めて取材チームをつくってくれました。国会で論戦が始まっていたので、政治部記者が多かったのですが、その中で社会部として私が1人取材団に加えさせてもらうことになります。

2014年11月の衆議院選挙のとき、当時自民党副幹事長だった萩生田光一さんが、各テレビ局の自分の番記者（特定の取材対象者に密着して取材を行う記者）に対して、各編集局長に持っていくように言われて、いわゆる萩生田文書を選挙前に配りました。その文書は公平公正、中立な報道を心がけよといった内容です。テレビの編集局長クラスに、政権に対する賛成と反対を半々ずつ「公平に」報道しなくてはいけないとか、出演者の発言回数や時間等について細かく自主規制に関する文章を出しました。新聞は対象にはなっていませんでしたが、その後、いわゆる忖度報道をするようになって、特に東京の主要テレビ局からは本当に安倍政権批判がしづらくなったという声はずっと聞かれるようになりました。

忖度報道解禁、朝日に続け

実は森友問題について、今年2月に朝日新聞のスクープ報道が社会面に掲載されたときも、初めほどの報道機関も東京は様子を見ていました。特に東京の主要テレビ局は3～4日遅れて報道するのですが、その間、独占状態で報道していたのが、テレビ東京でした。塚本幼稚園の運動会や教育勅語暗唱の録画等をどんどん流しました。これが、ものすごく視聴率が上がっていたそうなのです。そうすると、「これはいつまでも安倍政権に忖度はしてられません」（笑）ということで、各テレビ局のプロデューサークラスが上に言うようになって、徐々に安倍忖度報道を解禁するんです。籠池夫妻の強烈なキャラクターもあって、テレビの視聴率がどんどん上がりました。

その後に出てきたのが、加計学園疑惑のスクープです。安倍総理の腹心の友といわれる加計孝太郎理事長

が経営される加計学園に獣医学部を新設することに関して、「総理のご意向」ということが明記され、迅速に設立の対応をなささいということを追っている文科省の文書が出てきました。このとき、菅官房長官が会見で、「怪文書」と批判し、出どころも不明で、調査するに値しないと一蹴しました。

前川前事務次官の報道

前川さんは5月25日に記者会見で告発するんですが、その前の22日に読売新聞が「前川前次官 出会い系バー通い 文科省在職中 平日夜」という見出しで、社会面の肩で報じました。私は読んだ瞬間に、疑惑のように書いているので、数日後に捕まるのかなと思いましたが、結局そうした動きはありませんでした。読売新聞は逮捕前提のような内容でないこの手の報道はしていなかったの、これまで事件に強い読売新聞の記者をある意味尊敬していただけに、とても衝撃を受けました。

しかし、前川さんは読売の報道にもめげずに、会見で出ている文書は確実にありましたと言っていましたし、出会い系バーについても、「女性の貧困の実態を調査するためだった」と説明していました。これは一度直接本人から話を聞かなければと思い、いろいろ人づてにアピールをして、6月1日に3時間50分にもおよぶインタビューに応じていただきました。

明らかになる前川さんの人となり

前川さんは夜間に通った新宿の出会い系バーには、例えば数学が苦手な高校を中退して、手に職がなくパートなどもうまくいかず、生活に困って2,000～3,000円ぐらいの日銭を稼ぎに来ている女の子たちが沢山いるという状況を話してくれました。また、特定の通信制高校では入学金と授業料さえ払えば、授業に出なくても5回ぐらいのマークシート方式の試験をクリアすると、卒業資格がもらえることも教えていただきました。前川さんは、数学の単位認定で引っ掛かってしまい、それで卒業できなくなる女の子が多いことから、数学は必修科目から外すべきではないか、それから通信制高校についても全日制高校の基準でチェックをするべきなど、出会い系バーに来る女の子たちの貧困の現場で得たことを踏まえて文科省にフィードバックして改善を提案していました。また40人以下の学級やフリースクールも特区で認めていくことを進めています。

奥さまにも出会い系バーに通うことを伝えていたそうです。とても性的な趣味で行ったのではないとい

うことを感じました。そして、彼は本当に政府に狙われ続けることを覚悟で訴えたんだということがわかりました。行政が加計ありきでゆがめられている流れをきっちり、新聞や講演等で私が伝えていかななくてはと思うようになりました。

初めての官房長官会見

そして私にあと何がでるのかを考えると、安倍首相に質問をすることが一番です。しかし、ぶら下がり会見（首相がカメラの前に立って質問に答える取材）は首相番の記者しかできませんし、首相会見では、何故か広報官が指す記者は決まっています、質問できる記者は限られています。毎日新聞はたまに指されているようですが、東京新聞はほとんど指されないと聞きます。そうした中で、ナンバー1が駄目ならナンバー2の菅官房長官に質問しようと決めました。うちの政治部記者に頼むことも考えたんですが、テレビや新聞でがんがん森友・加計疑惑を報じていても、官邸会見の動画を見ると、1、2問で終わっているという状況がありました。これは自分が行くしかないのかなと思い、初めて行ったのが6月6日の会見でした。

このとき、やや緊張していましたが、前川さんに関する質問をすると、「教育者としてあるまじき行為だ」と菅さんが答えました。なんだか秘書官が作った文章を読み上げているようでしたので、「何か読み上げてお話しされているんですか」と聞いたら、「あなたにそんなことを言う必要はない」と怒っていました。私は前川さんや関係者に取材する中で、非常に現場から学ぶこともたくさんあると思ったので、「菅さん自身がそういう場〔出合い系バー〕に実際足を運んで、現状を知るために行くべきではないですか」ということも言いました。この時、意外に沢山質問が聞けるんだなと思いました。官邸会見は、これまで歴代、官房長官には手が下がるまで聞けるというのが一つのしきたりのようです。

文書「再調査」が決定

6月8日、2回目の官房長官会見に行きました。通常10分、15分ぐらいで終わるのですが、このときは私1人で20分かけて23問ぐらい質問するという会見になりました。その中で一番しつこく聞いたのが、加計学園の再調査をしないことについてでした。「現役職員の職員が、自分の身の危険を冒して告発に出ている職員が複数いる。実名で告発に踏み切れば、適正な処理をするんですか」、「公益通報者保護制度というものがありませんが、この精神に基づいて、その人を保護した上でその告白内容を聞き入れてくれますか」と言うと、菅さんは「仮定のことについて答えることは控えたい。文科省でいずれにしろ判断します」と兎に角逃げます。出どころ不明だから一と今まで調べられないと言っていたので、「勇気を持って告発されたら、話を基に調査できるんですか」と聞くと、また「ですから仮定のことは控える、文科省において判断するんだ」と同じ答えが返ってきました。

このときはもう、みんな質問が長いから疲れていて、事務方からは「同趣旨の質問をお控えいただけるようお願いいたします」と言われるんですけど、私自身は、何としてもこれでは済まされないぞと思っていたので、繰り返し聞きました。「告発で出どころが明らかになっても、それを真摯に受け止めて調べるかは回答保留なんですか」と聞いたのですが、「仮定のことは控える。文科省で判断するんだ」と言って打ち切られました。

番記者はびっくりしたようです。通常、会見の後に囲み取材（取材対象者を記者団が取り囲んで行う取材）があるらしいのですが、その日は行われなかったとのこと。その日の会見のあとに、記者クラブの総意ということで、今後、質問が長過ぎたり1人で何回も質問すると、定例会見での質問は「1社1人です」と言われたり、オフレコの取材ができなくなってしまう可能性がある、伝えられました。しかし、その後「総意はなくなったから」と言われたのですが、よほど来てほしくないやつが来ちゃったなみたいな、困ったなという感じを受けました。

しかし、この会見の後、どうも菅さんは総理の執務室に駆け込み、夕方から夜にかけて杉田官房副長官や萩生田さんら6人衆といわれる安倍さんの側近の官邸幹部が集まり、議論をして再調査が決定されました。そして出てきた19のうち14文書について、存在が確認できたということを当時の松野大臣が認めます。菅さんも、このときに怪文書という言葉だけが一人歩きしているのは極めて残念だ等と言いつつも、こういうことがあったという結果を認めました。

安倍首相の「李下に冠を正さず」

安倍さんは今回の衆院選挙中も「李下に冠を正さず」（人などに疑われるような事はするなという意）と言いつつ続けていますが、去年の秋からだけでも毎月1回、埼玉等でゴルフや会食をしています。特区の議長でもある安倍さんが飲食や供応、接待なるものは絶対、受けてはいけなと思いますし、また大臣規範にも抵触するのではないかともしわれています。

安倍さん自身は、加計学園の申請は1月20日まで知らなかったと、この大臣規範抵触を意識してから言い出しました。菅さん自身は、これは通常の交際の範囲内じゃないかと反論をしています。

安倍さんにも近い、加計学園の関係者の方にインタビューをしたら、加計さんは安倍首相の腹心の友であると同時に、最大のスポンサーであると言っています。2009年、2012年の選挙では、これは一部訴訟になっていますが、加計学園を退職した元職員の方を使って、選挙の応援もしています。

もし9月からの臨時国会が開かれていれば、その前に議院事務局法に基づいて予備的調査を行い、例えば「おごったり、おごられたり」したのか否かについての客観的な資料を出しもらうことが衆議院の中でできたということでした。そういうことも、今回の解散総選挙があって流れています。

メディアは権力とどう向き合うべきか

皆さんご存知と思いますが、5月8日に始まった衆議院予算委員会の審議で、憲法改正発言について「その真意を教えてほしい」と問われたとき、安倍さんは「自民党総裁としての考え方は、相当詳しく読売新聞に書いてあるので、熟読してもらってもいい」と、安倍さんの意見を読売に肩代わりさせているとも取られかねないような発言をしました。

それから、6月1日の産経新聞で、釜山総領事の森本康敬さんが更迭をされるということがスクープされました。森本さんが数人の記者と会食をしたとき、どうも政権に批判的な発言をしたことが官邸に伝わり、更迭にあったようです。

取材で聞いた話ですが、少しでも安保法制を含めて批判的なことを政治家が政治部の記者に話すと、数日後には官邸の幹部がその情報を知っているそうです。ある自民党議員は「だから今の政治部記者は全く信じられない」とこぼしていました(笑)。安倍政権が強くなって、杉田官房副長官や北村滋内閣情報官など警備や公安出身の官僚が官邸の中枢部に陣取っており、ある意味、思想チェックをかなりしていると聞きます。私もたぶん、調べられていますね(笑)。

どうチェックしているかという、番記者にメモや口頭で報告をさせているようです。自民党の政治家であっても、安倍さんや官邸に批判的なことを言っているのは誰かとか、記者では誰が一番批判的なことを言っているのかなど、常時報告をさせているとも聞きます。半ば番記者もそういう意味では、情報統制の道具として使われているような側面があります。

テレビ朝日は朝日新聞が大株主として入っていることもあり、TBSと併せて政権批判的なメディアとも言えます。テレビ朝日の会長の早河洋会長が、出版業界の幻冬舎の見城徹社長と仲がいいことで安倍さんとながったといわれています。「報道 STATION」は一時期、2014年の萩生田文書問題以降は、番組トップに政治のニュースは絶対持ってきてはけないとか、賛否半々の報道をしなくてははけないとなりました。だから、だんだんみんな面倒くさくなって、「このニュース報道やめとこうよ」という諦めなんかが出てきてしまったとも聞きます。

安倍さんと早河さん、テレビ朝日の報道局長と政治部長、そして安倍さんの番記者が、前川さんが告発会見をする5月25日の前夜に、3時間から4時間にわたって会食をしていました。これは首相の1日の動静で出てきたのですが、「海外メディアだったら、まずは考えられない」とアメリカ人記者に言われました。これから疑惑の追及がはじまるといえるときに、自分の会社のトップがこのようなことをしていると、現場を萎縮させてしまいます。

萎縮してはられない

9月末ぐらいから記者会見では、私は本当に一番最後にまわされ、お一人1問でお願いしますとか言われ、せいぜい3問くらいしか聞けなくなりました。1問で

どれだけインパクトのあることをぶつけるかにかかってくるようになってしまいました。今後、番記者の質問さえも恐らく制限されるのではないともいわれています。

2014年の萩生田文書以降は、特にテレビの方たちが危機感を持って、横のつながりの勉強会のようなこともすごく増えました。それから今回のことで大手紙の幹部からみんな頑張れと電話をかけてくれたり、読者の方々や読者でない方からも、全国から講演会依頼とか、応援の手紙や電話、メールをいただくようになりました。会社としては苦情も含めてマイナスのこともたくさんあると思うのですが、こうした皆さんや読者の声援支援がある限りは、私の官邸会見は行っては駄目だということではなくて、送り出してくれている状況です。会社には感謝しています。

私が今、一番問題だなと感じているのは、私の発言の一部を切り貼りされ、ネット上で批判が渦巻いたりしていることです。私はあまり見ないようにしているのですが、バッシングが吹き荒れていることもあるようです。友達や会社の同僚が心配してくれています。

自分の五感を信じて、人々のために

私自身も揚げ足を取られないように気を付けなくてはいけないところはたくさんあるのですが、徐々にネット時代になって、ジャーナリストとしての信念が持てるような時代になってきたかなとも感じています。

記者会見では相変わらず浮いていますが、やはり五感をフルに使い、自分の考えで言うようにしています。いろんな人からアドバイスを聞いて悩むこともありますが、最後は、これはやるべきだということをきっちり自分の心に問い掛けながらやってくということが大切かなと思っています。

それから、加計学園で言うと、100億円規模の補助金が使われるわけです。このお金があれば、6人に1人といわれる貧困層の子どもたちに何かできるのではないかと思います。だから、みんなが幸せになれる方向なのか。市民一人一人に伝わり、いっしょに考えていけるような記事や情報をつくってきたいと思います。

<講師プロフィール>

もちづき いそこ

慶應義塾大学法学部卒業後、東京・中日新聞社に入社。千葉支局、横浜支局等を経て社会部で東京地方検察庁特別捜査部などで事件を中心に取材。日本歯科医師連盟のヤミ献金疑惑の一連の事実(2004年)や足利事件の再審開始決定(2009年)をスクープする。現在、社会部遊軍記者として、防衛省の武器輸出、軍学共同などをテーマに取材している。